

★★★最後のイルミネーション★★★



12月12日に点灯式を行いました。当院は平成31年2月に新病院（小名浜野田）へ移転するため、現在の豊間地区では最後のイルミネーション点灯となります。

点灯時間は、午後4時30分から午後9時までとなっております。



いわき病院の診療体制等について

- 診療科目 内科、神経内科、外科、脳神経外科、小児科（小児神経疾患）、リハビリテーション科
- 外来受付 8:30～11:30（ただし、救急患者は随時受け付けております。）
- 診療時間 8:30～17:15 ※金曜日の内科は、鈴木または代診の医師が担当します。

外来担当医師診療日程表 【平成30年7月～】

区 分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	診療室① 鈴木 栄		診療室① 鈴木 診療室② 齋		診療室③ 高橋 ほか
	診療室③ 尾田 宣仁	診療室① 會田 隆志	診療室③ 尾田 宣仁	診療室① 関／會田 (交代制)	診療室① 関 晴朗
				診療室② 田崎 博	
神経内科専門外来（予約制）					
午後	神経難病 神経筋疾患 《診療室①》		(神経内科) 関 晴朗		
小児神経外来（予約制）					
午後	小児神経外来 《診療室①》	(小児科) 柳沢 俊郎			(小児科) 柳沢 俊郎



■ お知らせ ■

◆患者相談窓口

患者さんやお見舞いの方などからの苦情・相談については、『患者相談窓口』と『ご意見箱』で対応しています。なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。

◆当院受診について

他の医療機関に通院中の方は、主治医の先生に当院病診連携を通して診療予約をとって頂いた上で来院願います。



発行元 **独立行政法人国立病院機構 いわき病院**

責任者 院長 関 晴朗
〒970-0224 福島県いわき市平豊間字菟渡路291番地
TEL 0246-55-8261 FAX 0246-55-5052
ホームページ <http://iwaki-hosp.jp/>



信 条

- ◆ 患者さま本位の医療を行います
- ◆ 患者さま及び家族の生活を大事にします
- ◆ 科学的根拠に基づいた質の高い医療を提供します

新しい装置で出発だ！



Ingenia 3.0T

新病院では新規に3テスラMRIが導入されるほか、CTと一般撮影装置が更新されます。

CTではキャノンメディカルのAquilion™ Lightningが採用されました。同社の最高峰装置と同じ検出器や技術をたっぷりと投入し、高画質と低被曝を両立した装置です。MRIはフィリップス社製Ingenia 3.0Tです。1.5テスラが標準の時代に3テスラを採用し、最高の画質と医療を提供することを目的としています。

一般撮影はコニカのフラットパネルを使用、PACS化されます。これによりフィルムを一切使用しない診療となり、運搬や整理などの時間を患者さんとの接点に使うことができるようになります。最新技術は患者さんへのやさしさへつながるのです。

新しい装置で気分新たに出発です！

診療放射線技師長：齊藤 雅伸



Aquilion™ Lightning



コニカ FPD

平成30年度 第2回地域連携研修会

「サルコペニア ―基礎と臨床―」 筑波大学大学院人間総合科学研究科 山田実准教授をお迎えして

今年度 2 回目の地域連携研修会が、11 月 28 日にいわき市総合保健福祉センター多目的ホールにて開催されました。サルコペニアは加齢に伴う骨格筋量の減少を指します。このサルコペニアは転倒や要介護の要因となることから、言うまでもなく早期発見・早期対策は重要な課題となっています。

サルコペニアの対策には、運動単独介入だけでなく栄養介入との併用が重要です。これまで運動療法単独と比較して運動と栄養の併用療法では、より高く筋力増強効果、筋量増加効果が認められることが示されています。なお、サルコペニア予防・改善の運動療法としてはレジスタンストレーニングが推奨されており、一般的には 1RM の 80% 程度の高負荷でのトレーニングが必要とされていますが、近年では高齢者においては 1RM の 40% 程度の低負荷運動でも筋機能の改善効果が得られることが示されています。一方、栄養介入に関しては、タンパク質やアミノ酸などを摂取することで筋タンパク同化を促進し、筋量増加や筋力強化に有用となります。

健康の基本はやはり運動と栄養が重要なようです。今後も皆様の健康に役立つ研修会を企画して参ります。

外来看護師長：琴畑 利昌



* 第72回国立病院総合医学会に参加して

第 72 回国立病院総合医学会は、神戸国際展示場と神戸国際会議場の2会場で、平成 30 年 11 月 9 日（金）と 10 日（土）の 2 日間開催されました。会長の京都医療センター小西 郁生院長のご挨拶の中で、過渡期にあると言われる我が国の医療の中で、患者さんには一人ひとり個性があり、同じ疾患であっても患者さんによってその病態がずいぶん異なり、病態の多様性に応じた「個別化医療」が注目されていること。また一人ひとりの個性を大切にすることは、人間に真に優しい医療を展開しようとする現れでもあるというお話がありました。今日、医学・医療は一人ひとりの “多様性 diversity” を重視する世界へと大きく変革しようとしていることを踏まえて、“多様性のなかに個が輝くー私たちの医療を推進しますー” を、メインテーマとし活発な発表や討論が行われました。

当院の発表は 7 題でした。ポスターセッションの発表では、阿部雅美副看護師長が“筋萎縮性側索硬化症患者の退院支援・退院調整を振り返って一花を觀賞する生活を構築するために必要だったことー” を、石崎育美看護師が“神経難病病棟で働く看護師が経験した患者との人間関係構築について～インタビューから明らかになったこと～” を、川越清道作業療法士が“遷延性意識障害患者に対するコミュニケーション支援ー聴覚失認を呈した 1 症例への介入ー” を、村上健吾作業療法士が“脊髄小脳変性症の小脳性運動失調に対し、COP0scillation と運動療法により改善が見られた一症例” を、仁和愛里主任栄養士が“重症心身障がい児（者）病棟の行事食における食事満足度調査について” を、鈴木栄副院長が“神経難病患者における体成分データの比較検討” を発表し、講演発表では、

渡邊大介言語聴覚士が“パーキンソン病におけるサルコペニアの有病率と関連する因子の検討” を発表しました。どの演者も分かり易さを念頭に発表を行い、会場からの質問にも的確に対応しておりました。

阿部雅美副看護師長と石崎育美看護師の 2 名がベストポスター賞を受賞するという快挙を成し遂げました。大変嬉しいニュースで、この場で2名の受賞に大きな拍手を送りたいと思います。

来年の第 73 回国立病院総合医学会は、“〇〇における国立医療の挑戦～明日は変えられる～” をテーマに名古屋で開催されます。今回の経験を活かし、新元号〇〇で当院の移転新築後初となる医学会でもあり、数多くの素晴らしい研究成果が発表されることを大いに期待したいと思います。

副院長：鈴木 栄

